



Newsletter

vol. 5

シェルター「丘のいえ」だより『初めての子どもを迎えて』●
虐待防止学会リポート●
第3回シェルタースタッフ養成講座●



パオの
現いま

シェルター「丘のいえ」だより②

ようこそ、丘のいえへ！初めての子どもを迎えて

子どもたちのシェルター「丘のいえ」は、愛知県内の小高い丘にあります（シェルターという性格上、住所・詳細は非公開です）。「パオ」設立に向けて話し合いをしている間に、5名の弁護士がお金を出し合って購入した土地建物を借り受けたものです。多少の修繕ののち、平成19年4月には開所式を行い、6月に正式に動き始めました。「丘のいえ」に入った子どもたちには、それぞれシェルターソーシャルワーカーと子どもサポート弁護士が寄り添い、子どもの支援を行っていくことになっています。

開設後その年の10月まで、問い合わせはそれなりにありましたが、入所者は一人もいませんでした。一時保護所がいっぱいで保護が追いつかない児童相談所や、親からの虐待で飛び出してきた18歳の子どもを事実上保護している女性相談センター、子どもを支援している他の団体などから、「入所させてもらえないか」との打診や問い合わせが何件も入っていました。しかし、協議をしている中で里親などの委託先が見つかったり、子どもに学校通学の希望が強く、シェルターとしての性格上受け入れが難しかったりして、実際には第1号誕生までには至りませんでした。私たちと同じ時期にシェルターを始めた横浜の「てんぼ」がもう随分入所実績があるという話もあり、「丘のいえ」としては少し寂しいなあとも思っていました。講演などでパオの支援をお願いしても、「いま何人入っているんですか？」と聞かれ、返事に躊躇することもありました。

でも、平成19年11月に入り、第1号が誕生しました。10代後半の女の子でした。入所期間は比較的短いうちに他の支援機関につながることができました。行き場がなかった彼女に居場所を提供できたことは良かったと思います。ただ、支援する

スタッフが第1号の感激の余り、毎日集まってきて彼女を取り囲み、彼女にのんびりしてもらえたのだろうかとちょっと気になっていました。でも「丘のいえ」を出てしばらくして、彼女から「すごく楽しかった。みんなすごくやさしくて自分が保護されていることを忘れちゃうぐらい・・・（笑）」という丘のいえで生活した感想のメールが届きました。

そして、12月に入り、第2号の入所者も現れました。彼女も10代後半の女の子で、親からの虐待で家を飛び出してきたことです。「丘のいえ」での数日間はのんびり、ほっとしてもらえたようです。今、彼女を支援してくれる人たちと一緒に独り立ちの方法を考えています。

ようやく「丘のいえ」も子どもたちのためのシェルターとして動き始めました。実際に受け入れてみて、検討しなければならぬ点などもたくさん出てきました。これらの点を教えてくれたのも子どもたちでした。子どもたちに教えてもらったことを大切にしながら、子どもたちがほっとできるような空間作りを目指していこうと思います。

シェルターという性質上お伝えできる情報は多くありませんが、パオを応援して下さいいるみなさまに、できるだけシェルターの情報をお伝えしたいと思っています。どうぞこれからも応援の方をよろしくお願い申し上げます。（高橋直紹）

